

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スマートキッズソリス武蔵藤沢			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	2025年 12月 1日		～	2025年 12月 27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	3	(回答数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 20日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間の情報共有および支援内容の振り返りが継続的に実施され、支援の質向上に努めていること。	・訪問支援後には職員間で振り返りの場を設け、支援内容の検証および課題共有を行い、多角的な視点の支援に努めている。 ・支援記録の作成と共有を徹底し、職員全体で支援内容の共通理解を図っている。	・訪問前の情報共有や役割確認が確実にできるよう、共有様式や連絡手段の標準化を進め、事前準備の質向上を図る。 ・振り返りの内容を継続的に蓄積し、業務改善や研修計画に反映する仕組みを整え、PDCA サイクルの実効性向上を図る。
2	訪問先施設との連携が丁寧に行われ、支援後のフィードバックが継続的に実施されていること。	・訪問終了後には訪問先施設と支援内容の共有を行い、次回支援に向けた調整や助言を適切に実施している。 ・訪問時の相談にも柔軟に対応し、施設のニーズに応じた助言提供に努めている。	・訪問前に施設側の意向や課題を把握できるよう、事前アンケート等を検討し、意向確認の効率化を図る。 ・訪問時以外でも相談しやすい環境を整備するため、相談受付の仕組みや記録・共有体制を強化し、継続的な連携の充実を図る。
3	個別支援計画の内容を職員間で共有して、計画に沿った支援が行われるよう取り組んでいること。	・訪問後の振り返りのミーティングの際に支援計画の内容も併せて確認して、今後どのような支援をしたいかが職員間で共通認識をもって支援に取り組んでいる。	・訪問先が少なく、決まった職員のための訪問になってしまっているため、他の職員の育成をして、多角的に訪問先での支援について検討できるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先施設との事前意向把握が十分に行えない場合があること。	訪問前の連絡方法が電話中心であり、時間的制約により各施設の都合に合わせた細やかな確認が困難である。	・事前意向確認の様式化(チェックリスト・簡易アンケート等)を行い、施設負担を抑えつつ確実な情報収集を図る。 ・訪問前の連絡方法を多様化し、メール・オンラインフォーム等による効率的な意向把握体制を整備する。
2	支援計画の定期的なモニタリング体制が十分とはいえないこと。	計画見直しの基準やタイミングが明確化されておらず、担当者判断に依存している。	・定期モニタリングのスケジュールを年間計画に組み込み、確実な実施を図る。 ・「見直しが必要な状態」を示した基準(例:園からの課題指摘、支援内容の不一致など)を整備し、判断の統一化を行う。

3	情報発信の定期化が不十分で、保護者・施設への透明性が十分に確保されていないこと。	・情報発信担当者が限定されており、日常業務との兼務により発信頻度が不安定となっている。	・年数回の定期発信（通信・ブログ更新等）を目標としてスケジュール化し、担当者を明確化する。
---	--	---	---

公表

## 保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名 スマートキッズソリス武蔵藤沢

公表日 2026 年 1 月 29日

利用児童数 2026 年 1 月 20 日

回収数

3

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	訪問支援に使用する教員教材が整えられていますか。	3					訪問支援に使用する教員教材の一覧および使用方法を職員間で共有し、必要に応じて説明や確認の機会を設けることで、職員全体の共通理解を図る。
	2	プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	3					紙面のみで対応する場合や面談室が利用できない場合があったことを踏まえ、今後は可能な限りプライバシーに配慮した環境で説明・相談を行うよう運用を見直す。また、面談方法や対応環境について職員間で共通理解を図る。
	3	事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	3					事業の目的については全員が適切に説明されていると回答しており、現状の説明方法を今後も継続し、理解の維持に努める。
	4	保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	3					訪問の頻度や時間について、事前に保護者にお伝えできない場合があったことを踏まえ、今後は利用希望表等を活用して日程や時間の希望を事前に確認し、相談の上で決定する体制を徹底する。
適切な 支援の提供	5	こどもの状態に応じた支援が提供できる職員(職種や人数)体制だと思いませんか。	3					職員体制については概ね十分と評価されているが、児童発達支援に特化した職員を増員することで、よりきめ細やかな支援が可能になると考えられる。
	6	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いませんか。	3					こどもの特性に応じた専門的な支援については全員が十分に受けられていると評価しており、今後も現行の支援体制・方法を維持し、支援の質の継続に努める。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いませんか。	3					保育所等訪問支援計画(個別支援計画)の作成については全員が十分に実施されていると評価しており、今後も現行の方法を維持し、計画作成における質の確保に努める。
	8	保育所等訪問支援計画(個別支援計画)には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いませんか。	3					作成後に施設の意見を反映しているが、事前確認が十分でない場合があるため、今後は計画作成前に意向を把握する手順を整備する。
	9	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いませんか。	3					保育所等訪問支援計画はガイドラインに沿って設定されているが、保護者にも内容を十分理解してもらえるよう説明方法を工夫する。
	10	保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いませんか。	3					保育所等訪問支援計画に沿った支援は概ね実施されているが、保護者にも計画に沿った支援内容が十分理解されるよう、説明の方法を工夫する。
	11	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いませんか。	3					訪問先に事前に電話で確認を行い、支援実施時にも配慮を行っていることから、今後も訪問先への配慮を徹底し、計画的かつ円滑な支援の実施に努める。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3					契約時に運営規程や利用者負担について丁寧な説明を行い、適宜質問に対応している。今後も説明内容の充実や理解の確認を徹底し、利用者が安心してサービスを利用できるよう努める。
	13	「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3					保育所等訪問支援計画を示しながら支援内容の説明を行っており、全員が理解していると評価されている。今後もこの方法を継続し、理解の維持に努める。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	2				家族支援プログラムや研修会は現状実施できていないが、利用者や職員の調整が必要であることが主な理由である。今後は参加可能な方法や情報提供の仕組みを検討し、支援の充実に努める。
	15	必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていますか。	3					こどもの状況については保護者と必要に応じて情報共有を行い、健康や発達の状況、課題について共通理解を図っている。今後も情報共有のタイミングや方法を工夫し、より確実に共通理解が得られるよう努める。

公表

## 保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名 スマートキッズソリス武蔵藤沢

公表日 2026 年 1 月 29日

利用児童数 2026 年 1 月 20 日

回収数

3

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3					希望表を用いて面談希望を事前に確認し、子育てに関する助言や支援を計画的に行うことで、保護者のニーズに沿った支援が提供できるよう努める。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3					職員は面談や日常のやり取りにおいて共感的な対応を行っているが、保護者の気持ちをより丁寧に確認し、相談内容や不安に対して具体的に応答できるよう、面談時の質問項目や支援記録の活用などを徹底する。
	18	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3					子どもや保護者からの相談・申入れに対して、対応体制を整備し周知を行っており、迅速かつ適切に対応できている。今後も体制の維持・周知の徹底を図り、相談が行いやすい環境を継続して確保する。
	19	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3					子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮が行われており、全員が理解していると評価されている。今後も丁寧な配慮を継続し、円滑なコミュニケーションの確保に努める。
	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	3					訪問先への対応内容も含め、保護者に丁寧に報告・共有することで、保護者から見ても訪問先への対応が適切に行われていると実感できるよう努める。
	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	3					希望表を活用し、保護者が確認したい点や希望事項を事前に把握した上で、訪問先との話し合い内容を報告・共有し、保護者が話し合いの内容を具体的に理解できるよう努める。
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	3					訪問後の支援内容や配慮事項については口頭や記録で報告・共有しているが、希望表やアンケートによる事前確認は毎回実施できていない。今後は、可能な限り事前に保護者の希望や確認したい点を把握した上で報告・共有を行い、保護者が支援内容を確実に理解できるよう努める。
	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。		3				現在はブログ等の準備はあるものの、定期的な情報発信は十分でない。今後は、保護者に適切に伝わるよう発信方法を検討する。
非常時等の対応	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3					個人情報の取り扱いについては社内で確認・徹底しているが、保護者からは見えにくい部分もある。今後は、取扱い方針や対応の具体例を分かりやすく伝える工夫を行い、保護者に十分理解してもらえるよう努める。
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	3					緊急時の対応マニュアルは整備しているが、訪問先施設との具体的な連携や実践方法について、保護者には十分に伝わっていない。今後は、緊急時対応の体制や手順を分かりやすく説明し、保護者や施設に周知できるよう工夫する。
	26	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3					訪問支援における安全計画は整備され、保護者への周知も行われており、支援は安全に実施されている。今後も、計画に沿った安全管理を継続し、周知方法の改善に努める。
満足度	27	子どもは訪問支援を嫌がっていませんか。	3					子どもが訪問支援を嫌がる様子は確認されておらず、支援は円滑に実施されている。今後も、子どもの意向や反応を丁寧に観察し、必要に応じて支援方法を調整する。
	28	事業所の支援に満足していますか。	3					支援に満足している保護者が多い一方で、一部では判断しづらいとの回答もあった。今後は、保護者の意見や希望をさらに丁寧に確認し、支援内容や方法の改善に活かす。

公表

## 訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名

公表日 2026年 1 月 29日

スマートキッズソリス武蔵藤沢

利用児童数 2026 年 1 月 27 日 回収数 3

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	3				今後は、訪問時の助言に加えて、発達支援の根拠や背景の説明、園で活用しやすい追加の工夫例など、より踏み込んだ情報提供に努める。
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	2	1			訪問回数が少ないため、今後はより支援提案の際に、主となる助言に加えて、実践しやすい代替案や追加の工夫例を提示するよう努める。また、園側の状況を伺いながら、必要に応じて複数の選択肢を示すなど、より幅のある助言提供を行っていく。
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	2	1			対応した訪問職員だけでなく、質問内容を記録し全職員で検討する。また、質問が多かったテーマは簡易資料としてまとめ、訪問時に配布するなど、回答の内容を「見える化」することで、より理解しやすい支援につなげる。
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	1	2		まだ訪問回数が少ないので分からない。	今後は園や学校側との関係作りをし、課題や困りごととも共有いただけるよう、訪問前の連絡時に「園として気になる点の有無」を確認する機会を設ける。
5	事業所からの支援に満足していますか。	2	1			支援内容や助言の具体性・実用性について、施設のニーズをさらに把握し、満足度向上に向けて対応する。
その他のご意見					ご意見を踏まえた対応	
・訪問の日程を決める際、余裕を持った日にちをいただきたいです。 ・訪問時に日程調整を相談してもらえると時間効率がよいと思った。 ・お子さんの様子を共有できる機会を設けていただき、心強く感じております。					・訪問日程については、基本的に1週間前に電話で日程調整をして決定している。しかし今回のご意見から、その月の訪問をあらかじめ前月に連絡して調整する等、訪問先の負担にならないように柔軟な対応を心がける。  ・利用者の様子を施設と共有する機会については、引き続き十分な情報交換が行えるように努め、施設が安心して支援に関われる環境を整えていく。これにより、施設との連携を強化し、より効果的な訪問支援の実施を目指す。	

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日					
スマートキッズソリス武蔵藤沢		2026年 1月 29日					
		チェック項目	はい	いいえ	分らない	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	2			・現状では教材を実際に活用する機会が少ない。	・支援場面での活用方法の検討を行う。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2			・訪問数は多くないため、対応している職員が限られている。	・訪問対応が可能な人材育成を行う。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2			・訪問後に職員間で共有時間を設け、振り返りを行うことができています。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1		1	・保護者向け評価表は今回が初回であるが、これまでも希望表の活用により定期的に保護者の意向把握を行っており、支援に反映している点は評価できる。	・訪問後のフィードバックの体制を整えることで、より適切な支援に繋げていく。
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2			・職員間の共有時に、意見交換を行うことはできています。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	1			・初回実施であり、評価結果の分析や改善への反映方法が確立していないため、次年度以降に向けて活用手順の整備を行う。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2			・訪問開始前に心理職による研修を実施し、職員が支援に必要な基礎知識を身につけられるようにしている。	・初回研修だけでなく、訪問後の振り返りやケースに応じた追加研修の機会があると、より実践的なスキル向上に繋げる。
適切な支援の	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	2			・面談や希望表の活用により、保護者の意向や子どもの特性を定期的に把握している。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2			・ミーティング時に職員全員で検討できており、多角的な視点を取り入れている。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	2			・訪問先施設に計画内容を確認してもらい、意向の反映に努めている。	・事前に十分な意見交換ができない場合もあるため、負担を軽減した意向把握方法を検討を行う。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2			・訪問職員への計画共有が行われ、計画に沿った支援が実施されている。	・訪問時間等で課題が生じる場面を訪問先と共有し、支援時間や方法について相談するなど、課題に対応できる工夫を行う。
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2			・日常観察を用いて、子どもの適応行動を丁寧に把握している。	・アセスメント結果をより効率的に分析・共有する仕組みを整える。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	2			・訪問前に研修を実施し、保育所等訪問支援ガイドラインに示された具体的内容を踏まえたうえで、個別支援計画に具体的な支援内容を設定している。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2			・個別支援計画の内容を職員間で共有し、計画に沿った支援が行われるよう取り組んでいる。	・現状は計画の共有は行っているものの、都度の確認や支援実施後の振り返りが十分ではないため、計画内容の定着や支援の質向上の観点から、確認・振り返りの仕組みを整備する。



提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	1		・職員間で支援内容や役割分担について打合せを行い、個別支援計画や保護者のニーズを踏まえて支援を実施している。	・打合せが事前に十分行えない場合もあるため、訪問前に情報を共有できる方法や連絡手段を検討し、事前確認が確実にできるようにする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2			・訪問支援終了後、訪問職員が主体となって職員間で支援の振り返りを行い、気付いた点や課題を共有する仕組みを整えている。また、職員間で意見交換を行うことで、多角的な視点から支援内容の検討ができるよう工夫している。	
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	2			・現状は明確な取り組みとして実施できていないが、保育所等訪問支援においては、訪問先の状況や子どもの特性を踏まえた支援を心がける姿勢がある。	・訪問先の理念や支援手法を尊重した対応は十分に行えていないため、今後は訪問前の情報収集や事前打合せの仕組みを整備し、職員間で共通理解を持ったうえで支援を行える体制を構築する。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	2			・毎回の支援記録を徹底して作成し、職員が記録を確認することで、支援内容の把握や改善点の共有に活用している。	
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2			・支援計画の更新時には、保護者へのヒアリングや職員間での振り返りを実施し、保護者の意向や支援状況を反映した計画見直しに努めている。	・計画の更新時以外では保護者や訪問先の意向を定期的に確認しておらず、必要に応じた柔軟な計画の見直しが十分に行えていない。今後は、定期的なモニタリングの仕組みを整備し、状況に応じて適切に計画を見直せる体制を構築する。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2			・児童発達支援管理責任者(児発管)が会議に参加することで、その子どもの状況や支援内容を十分に理解した職員が情報提供や意見交換に関わる体制を整えている。	
	21	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2			・現状は連携の実施機会は少ないものの、必要に応じて地域の保健・医療・福祉・保育・教育等の関係機関と対応できる体制を整えており、迅速な支援や情報共有に対応できる準備をしている。	・関係機関との連携は現状限定的であり、計画的かつ定期的な情報共有や協議の仕組みが十分ではない。今後は、関係機関との連携体制を明確化し、子どもや家族への支援の質向上につなげられるよう改善する。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2			・現状は就学時の移行対応は行っていないが、日常の支援や面談を通じて子どもの状況把握や保護者との連携に努めており、将来的な移行支援に活かせる情報を蓄積している。	・就学時の移行に関する支援や情報共有はまだ実施できていないため、今後は小学校や特別支援学校(小学部)との間で、子どもの状況や支援内容を適切に共有し、相互理解を図ったうえで円滑な移行ができる体制を構築する。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2			・社内心理士の助言を活用し、専門的知見を支援に反映している。	・外部研修への参加はこれまでできていないため、今後は外部の研修や専門機関の知見を取り入れる機会を検討すると、さらに支援の質向上につなげる。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1	1		・現状は参加できていないが、日常の支援や社内研修を通じて、子どもや保護者の状況を把握する努力をしている。	・自立支援協議会や地域の子ども・子育て会議への参加ができていないため、今後は参加の機会を検討し、地域や他機関との情報共有や連携を進める。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2			・面談や希望表の活用により、保護者の意向や子どもの特性を定期的に把握している。	
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2				・家族支援プログラムや研修への参加ができていないため、参加や情報提供の機会を検討する必要がある。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2			・契約時に運営規程や利用者負担について丁寧に説明するとともに、都度保護者からの質問に応じることで、利用者が安心してサービスを利用できるよう配慮している。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	2			・訪問前に可能な場合は事前に事業の趣旨や訪問支援の目的を伝え、訪問時には支援計画を園・学校にも確認してもらうことで、訪問先施設との相互理解に努めている。	・事前説明が必ずしも全ての訪問で行えているわけではなく、訪問先施設への説明方法やタイミングにばらつきがある。今後は、事前説明や計画確認の手順を標準化し、訪問先施設がより理解しやすい体制を整備する。

保護者等への説明等	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2		・保護者に確認を行い、こどもの最善の利益を優先する姿勢を持って支援計画を作成している。また、未就学児が多い対象者であっても、可能な範囲でこどもの意向を尊重する工夫を行っている。	・未就学児の場合、こどもの意思確認が十分に行っていない場合があるため、こどもの意向をより反映できる方法（観察や簡易アセスメントの活用等）の工夫が課題である。また、保護者との確認内容や判断の過程を記録・共有し、計画作成に活かせる体制を整備することが必要である。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	2		・面談時に丁寧なヒアリングを行い、保護者の意向を確認したうえで保育所等訪問支援計画を作成している。また、計画を交付する際には内容を説明し、理解を得たうえで同意をいただくよう努めている。	・計画内容の説明については実施しているものの、より理解しやすい説明方法や資料の工夫に取り組む余地がある。また、面談時間や説明の機会が十分に確保できない場合があるため、事前資料の整備等により、計画内容をより確実に共有できる体制づくりが課題である。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	2		・希望がある場合には家族支援として面談を設定し、必要に応じてこちらからも情報提供や助言を行うことで、家族が抱える子育ての悩みに適切に対応できるよう努めている。	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	1	・年に一度、保護者会を開催し、保護者同士が交流できる機会を設けている。また、保護者やきょうだいの交流を通じて情報交換や支援の理解を深める場を提供している。	・開催はしているものの参加者が少ないため、より多くの保護者が参加しやすい工夫や、交流の機会を増やす仕組みの整備が課題である。今後は日程や形式の工夫など柔軟な方法の検討により、交流の機会を充実させる必要がある。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2		・希望表を活用して都度相談内容を確認し、必要に応じて面談の案内を行うことで、こどもや保護者が相談しやすい体制を整えている。また、相談や申入れに対して迅速に対応できるよう努めている。	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	1	・現状は定期的な通信の発行は行っていないものの、ブログ等で情報発信できる体制を整備しており、こどもや保護者に向けて活動概要や連絡体制の情報提供が可能な準備をしている。	・定期的な情報発信はまだ実施できていないため、計画的に通信やHP・SNS等を活用して情報を発信し、こどもや保護者が必要な情報を適切に受け取れる仕組みを構築する。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2		・職員向けに個人情報の取り扱いに関する確認を実施し、職員間でも取り扱いへの意識を都度確認することで、個人情報保護への意識向上に努めている。	
訪問先施設への説明等	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2		・職員は障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達に配慮する姿勢を持ち、日常の支援や面談の中で意識して対応している。	
	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	2		・訪問時に相談内容を確認し、必要に応じて助言や支援を行うことで、訪問先のニーズに柔軟に対応できる体制を整えている。	・現状は訪問時に確認する形に限られており、訪問以外のタイミングでの相談対応や、相談内容の記録・共有の仕組みが十分ではない。今後は、訪問先からの相談に定期的かつ計画的に対応できる体制を構築し、支援の質向上につなげる。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	2		・訪問後には必ずフィードバックを実施し、訪問先施設と情報共有や意見交換を行うことで、支援内容の確認や次回支援への反映に努めている。	
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	2		・利用者の希望に応じ、紙面や対面で訪問支援の内容や園・学校への共有事項を伝えるなど、状況に応じた柔軟な情報提供を行っている。	・紙面で情報提供を行った場合、内容についての疑問点や確認事項を十分に把握できないことがあり、家族等との双方向のコミュニケーションが不十分となる場面がある。今後は、紙面配布時の確認方法の工夫や、必要に応じたフォロー体制の整備により、支援内容の理解をより確実にする仕組みを整える。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2		・職員向けに個人情報の取り扱いに関する確認を実施し、職員間でも取り扱いへの意識を都度確認することで、個人情報保護への意識向上に努めている。	
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	2		・訪問後のフィードバックの際に、訪問先施設からの相談に対応し、必要な助言を行うことで、信頼関係の構築や支援内容の適切な調整に努めている。	



非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止マニュアルや緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知しており、職員が参照できる体制を整えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状は訪問時に訓練を実施できていないため、マニュアルに基づいた実践的な対応力の向上や緊急時の即時対応が十分ではない。今後は、訓練やシミュレーションを定期的の実施し、職員の対応能力や家族への周知方法をより実効性のあるものにするのが課題である。</li> </ul>
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全計画を作成し、必要なマニュアルを整備することで、職員が参照できる体制を整え、安全管理を意識した支援実施に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状は訪問時に訓練を実施できていないため、マニュアルに基づく実践的な対応力や緊急時の即応性が十分ではない。今後は、定期的な研修や訓練の実施により、職員の安全管理能力を向上させ、より安心・安全な支援体制を確立することが課題である。</li> </ul>
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状、ヒヤリハットの記録は行っていないものの、職員間で日常的な注意喚起や情報共有を意識し、事故防止への取り組みの基盤を保持している。</li> </ul>	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内で虐待防止委員会を設置し、定期的に研修を実施することで、職員が虐待防止に関する知識や意識を継続的に高められるよう取り組んでいる。また、教室内で支援の振り返りを行う際には、虐待の恐れがないかを職員間で確認するなど、日常的にリスクを点検する体制を整えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より専門的な視点からリスクを早期に把握・対応できる体制づくりが今後の課題である。</li> </ul>
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画にやむを得ず身体拘束を行う場合の基準を記載し、計画をお渡しする際に保護者に説明することで、事前に十分な理解と同意を得るよう努めている。また、身体拘束に関する委員会や研修に全職員が参加することで、組織としての統一的な判断基準や対応方法の理解を深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状は基準の周知や説明を行っているが、定期的に内容の見直しや実際のケース検討を行い、職員間での理解のさらなる浸透を図ることが課題である。また、保護者に説明する際の資料や方法の工夫により、より分かりやすく理解してもらえる体制づくりが今後の改善点である。</li> </ul>